射水市海竜スポーツランドの整備に関する
サウンディング型市場調査実施方針

令和７年１１月

射水市

目次

第１章　検討の背景と調査の実施目的

１―１背景……1

１－２調査の実施目的……2

第２章　現施設の概要

２－１施設概要……3

２－２維持管理費と修繕履歴……4

２－３利用状況……5

第３章　プール施設整備の基本的な考え方

３－１整備候補地……6

３－２整備施設の想定機能……7

３－３今後のスケジュール……7

第４章　周辺施設等との連携

４－１スポーツ施設との相互連携……8

第１章　検討の背景と調査の実施目的

１―１　背景

海竜スポーツランドは、平成１１年に２５メートルの温水プールやアリーナ等を有する施設として開設し、これまで幼児から高齢者まで幅広い年代の多くの市民に利用され健康増進や体力づくり、競技力の向上に大きく寄与してきました。

また、平成１４年からは、堀岡小学校の学校プールとしての役割も担っており、地域にとってはなくてはならない施設となっています。

しかしながら、施設の供用開始から約２６年が経過し、近年では雨漏りや設備の不具合など老朽化が著しく大きな修繕が多発するなど、安全性の確保と持続可能な施設運営の観点から、早期の整備が必要な状況にあります。

一方で、市内小学校のプール施設においては、老朽化に伴い実施する改修費の増大や、昨今の猛暑により水泳授業数の確保が困難になるなどの課題が顕著になっています。

本調査においては、新たなプール施設が、スポーツ振興や健康増進活動等の活性化によるベイエリア全体の賑わい創出に寄与する方策についても確認することとしています。

これらのことから、海竜スポーツランドの整備に当たり、民間事業者のノウハウを活かした施設運営を基本に、本調査を実施するものです。

１－２　調査の実施目的

１－１背景を踏まえ、市では次の２案を想定していますが、今回のサウンディング型市場調査においては、民間事業者のノウハウを活かした公民連携手法による市民サービスの向上と、効率的・効果的な施設運営に資する提案を求めるものであり、他の提案を妨げるものではありません。

案１　現在の場所で大規模改修
案２　フットボールセンター東側（県有地）に新築

整備に当たっては、独立採算による施設運営を基本とし、本調査では、そのための施設構造や機能、運営方法や運営期間、資金調達を含めた整備手法、市に求める条件等について確認します。

また、本調査の結果は、今後、施設運営予定事業者等を選定する公募型プロポーザルの実施に当たり、与条件等の整理の参考とします。

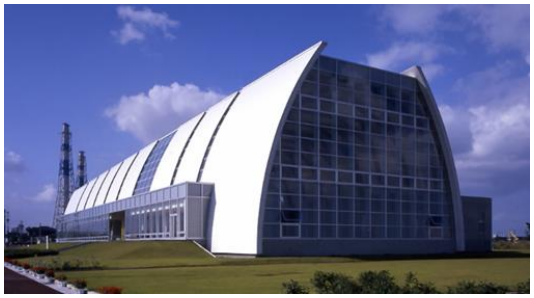
また、下記の表の太枠内の整備手法を優先検討手法とします。

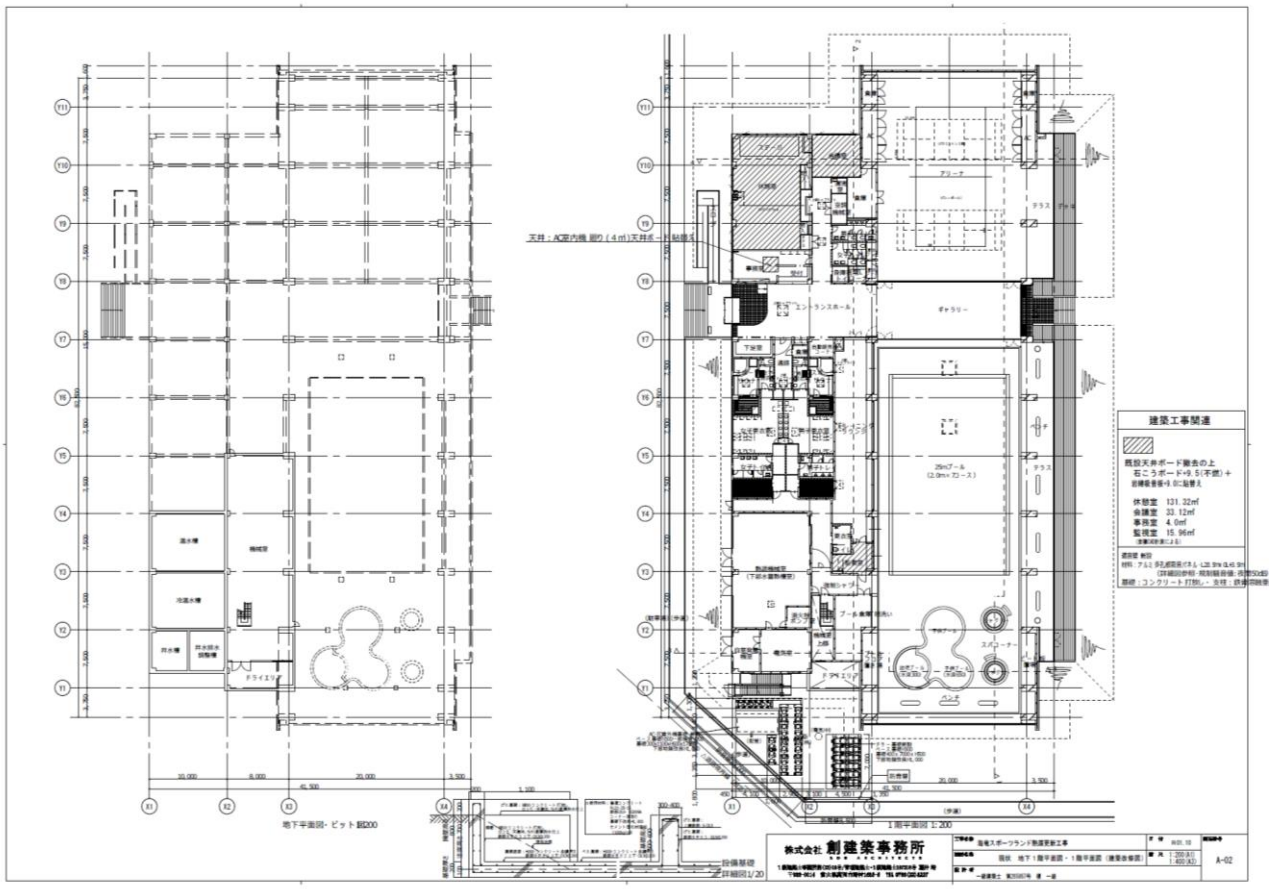
手法	事業方式	資金調達	設計・建設 改修	運営 維持管理	施設の所有	
					運営中	事業終了後
従来手法	公設公営方式	公共	公共	公共	公共	公共
PFI手法	BTO Build(建設)-Transfer(所有権移転)-Operate(運営)	民間	民間	民間	公共	公共
	BOT Build(建設)-Operate(運営)-Transfer(所有権移転)	民間	民間	民間	民間	公共
	BOO Build(建設)-Own(保有)-Operate(運営)	民間	民間	民間	民間	解体撤去
	BT Build(建設)-Transfer(所有権移転)	民間	民間	－	公共	公共
	RO Rehabilitate(既存施設の改修)-Operate(運営)	民間	民間	民間	公共	公共
	O Operate(運営)	－	－	民間	公共	公共
	公共施設等運営権方式 ※ （コンセッション方式）	－	－	民間 （運営権有）	公共	公共
PFI的 手法	DBO Design(設計)-Build(建設)-Operate(運営)	公共	民間	民間	公共	公共

第２章　現施設の概要

２―１　施設概要

名称	海竜スポーツランド
所在地	射水市海竜町２９番地
用途地域	準工業地域
建築面積	３，２１０平方メートル（県有地を借地）平成１１年
延床面積	３，３８５平方メートル
供用開始	平成１１年４月
構造	鉄筋コンクリート造（一部木造、大断面集成材）
規模	平屋建て（地下一階あり）
施設内容	温水プール・1，135㎡（25メートル×7コース） プールラウンジ・120㎡ アリーナ・485㎡（バレーボールコート１面又はバドミントンコート２面） トレーニングエリア・150㎡（ジムトレーニング） 休憩室・140㎡（和室54 帖） 更衣室、シャワールーム（男･女）・150㎡ スポーツサウナ、脱衣室（男･女）・60㎡ フロント、事務室、会議室、エントランスホール 地下機械室・221㎡
管理運営	指定管理（公益財団法人射水市スポーツ協会）





２―２　維持管理費と修繕履歴

≪維持管理費≫

令和６年度　管理経費の収支、収支率、利用者一人当たり管理コスト

区分		前年度（①）	令和6年度（②）	差引（②－①）
収入（a）		70,623,754円	67,653,268円	-2,970,486円
	指定管理料	40,732,000円	40,732,000円	0円
	修繕費	2,420,000円	2,420,000円	0円
	利用料金	12,952,230円	13,215,110円	262,880円
	指定管理者支援金	11,555,000円	8,589,000円	-2,966,000円
	その他	2,964,524円	2,697,158円	-267,366円
支出（b）		71,101,747円	73,556,924円	2,455,177円
指定管理　収支（a－b）		-477,993円	-5,903,656円	-5,425,663円
収支の比率　（令和6年度の収入額÷支出額×100%）（a÷b×100）		92.0%	利用料金の比率（②の利用料金÷事業計画の利用料金×100）	98.1%
※参考	実質支出額（c）（指定管理支出（b）+大規模修繕等の施設管理に係る市の支出）			107,029,282円
	実質収入額（d）（利用料金+その他収入+行財政財産使用料等の市の収入）			15,952,308円
	実質収支の比率（d÷c×100）			14.9%
利用者一人当たり管理コスト（実質支出額（c）÷利用実績人数）				1,548.1円／人

≪主な修繕履歴≫

年度	修繕費等
令和２年度	熱源更新工事　332, 200千円
令和３年度	緊急屋上防水工事　9, 460千円
令和４年度	ギャラリー天井復旧工事　13, 497千円
令和６年度	屋上防水工事　18, 823千円
令和７年度	東西外壁サッシ廻りシーリング打ち替え工事　9, 086千円

２―３　利用状況

令和６年度　アリーナとプールの合計人数について

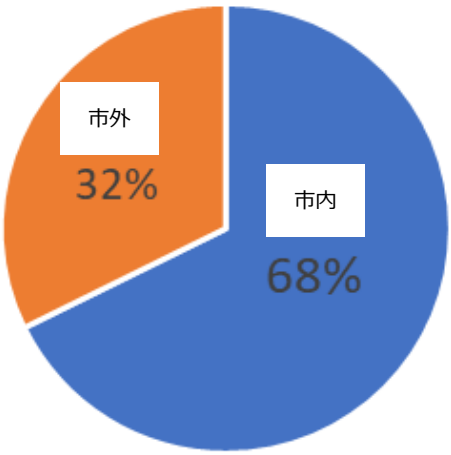
≪利用人数≫

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
R1	7, 859	7, 700	8, 228	8, 931	9, 111	8, 039	5, 178	7, 399	6, 610	7, 407	7, 271	4, 994	88, 727
R5	5, 297	4, 920	6, 241	7, 510	6, 763	5, 146	4, 134	4, 950	4, 929	3, 193	5, 910	6, 034	65, 027
R6	5, 585	5, 574	7, 042	7, 357	6, 726	4, 931	5, 073	5, 505	5, 265	5, 334	5, 121	5, 622	69, 135

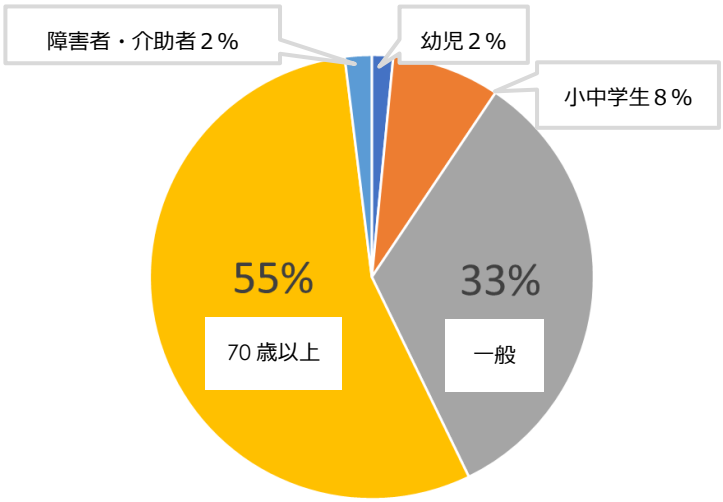
※新型コロナウィルス感染症流行前と近年の比較（人）

≪利用者内訳≫

【市内外の割合】



【年代等の割合】



※個人利用のみ

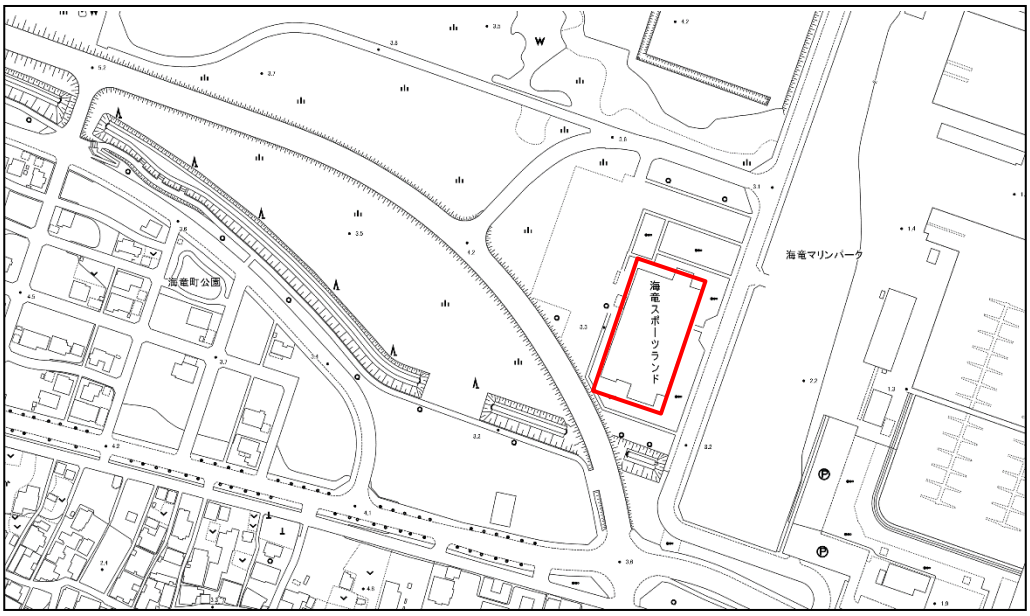
第３章　プール施設整備の基本的な考え方

３－１　整備候補地

整備候補地は、堀岡地区内での整備を最優先としますが、その他の用地の提案も受け付けます。

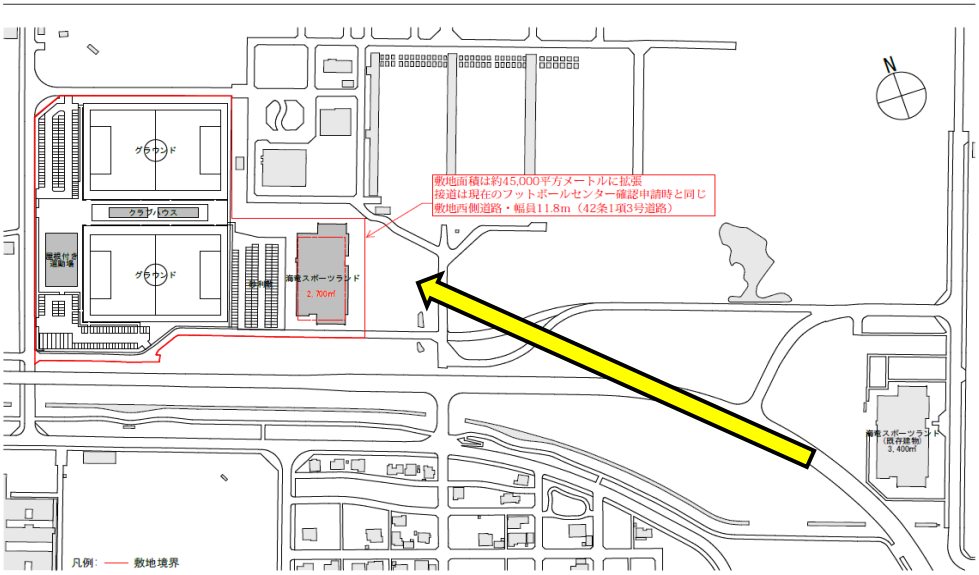
◎案１　現在の場所で大規模改修

所在地：射水市海竜町２９　用途地域：準工業地域



◎案２　フットボールセンター東側（県有地）に新築

所在地：射水市海竜町２３－１　用途地域：準工業地域



海竜スポーツランド　別敷地での新築計画　配置図

３－２　整備施設の想定機能

想定する施設機能は、下記のとおりです。

⑴　２５ｍプール（５～７レーン）

⑵　会議等で 100 名以上収容可能な多目的ルーム（フットボールセンター東側に新築する際には、相互利用ができるもの）

⑶　高齢者から幼児まで広く利用できる施設として、バリアフリーやユニバーサルデザインに配慮すること

⑷　安全管理を徹底し、ＤＸを活用するなど安心して利用できる施設とすること

⑸　メンテナンスや維持管理がしやすい施設とすること

⑹　学校教育に対応できること

３－３　今後のスケジュール

本調査結果を参考に公募型プロポーザルに係る与条件等を整理し、事業者の選定等を進めていきます。選定事業者には、施設のコンセプトをはじめ整備事業基本計画の策定支援を求めることとし、新たなプール施設は令和１２年度の開業を目指します。

	令和 ７年度	８年度	９年度	10 年度	11 年度	12 年度
サウンディング型市場調査						
公募型プロポーザル						
基本計画						
実施設計						
工事						
施設開業						

第４章　周辺施設等との連携

４－１　スポーツ施設との相互連携

海竜スポーツランドの周辺には、射水市フットボールセンター（オリバースポーツフィールド射水）や本格的なパークゴルフ場を備えた公園（富山新港元気の森公園）、海洋性レジャーの拠点である海竜マリンパーク（富山新湊マリーナ）、射水市唯一の海水浴場である海老江海浜公園などスポーツ施設が立地しています。

さらには、新湊大橋を渡った先にある海王丸パークや内川など観光スポットへのアクセスが良いことから、プール施設の整備により、このベイエリアをスポーツと観光が融合したエリアとして、新たな人流を生み出す可能性についても探りたいと考えています。